

## プラント状況確認結果(令和4年8月3日～令和4年8月9日)

令和4年8月10日  
福島県原子力安全対策課

令和4年8月3日～令和4年8月9日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

### プラント状況(8月9日午前11時)

以下の項目について、実施計画\*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら([県HP](#))を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 <sup>※2</sup>
原子炉 <sup>※1</sup> (核燃料)	冷却	注水量(m <sup>3</sup> /h)	4.0	1.6	2.0	—
		圧力容器 底部温度(°C)	27.3	34.6	31.3	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	8.00×10 <sup>-4</sup>	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.02	0.09	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	33.3	32.6	— <sup>※3</sup>	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 全燃料取り出し完了により、計測不要です。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(8月9日午前10時)  
最小 0.345(MP-6)～最大 1.023(MP-4) μSv/h ⇒[計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(8月8日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約0.37Bq/L(港湾口)  
～最大 7.2 Bq/L(遮水壁前)  
⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(8月8日採取分)

5、6号機放水口北側：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.63 Bq/L  
南放水口付近：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.78 Bq/L  
⇒[計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら([東京電力HP](#))を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(8月5日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 4.8 Bq/L (4号機と5号機)  
～ 最大 2400 Bq/L (2号機)

トラブルの概要(令和4年8月3日～令和4年8月9日)

この一週間におけるトラブル等について、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■ 免震重要棟前駐車場における油の漏えいについて

8月3日、午後1時15分、免震重要棟前駐車場において油が漏えいしていることを協力企業作業員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- ・ 発見時刻 午後1時15分
- ・ 発生場所 免震重要棟前駐車場
- ・ 発見者 協力企業作業員
- ・ 漏えい範囲 確認中(近傍の道路側溝への流入あり)
- ・ 拡大防止処置 検討中
- ・ 漏えい継続の有無 確認中
- ・ 双葉消防本部への連絡時刻 午後1時23分

当社社員が現場を確認したところ、免震重要棟前駐車場内において約1m×約15m、側溝内約30cm×約30mの油膜を確認しました。

側溝には土嚢及び吸着マットを設置し、拡大防止を図るとともに油の回収作業を実施しました。

また、排水路及び海洋への流れ込みはなく、付近に火気が無いことを確認しました。

流れ出た油に関しては、免震重要棟前駐車場内の資機材エリアに仮置きされている作動油缶に付着していた油が雨により流れ出たものであることを確認しました。

8月3日、午後2時20分、富岡消防署により「油漏えい事象」と判断されたことを確認しました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) ご覧ください。

■ 8月4日に発生した茨城県沖を震源とする地震後の状況について

本日(8月4日)午前9時48分頃、福島県沖を震源とする地震が発生しました。(気象庁発表)

(双葉町：震度4、大熊町：震度3、富岡町：震度3、楢葉町：震度4)

地震後の状況については添付をご確認ください。

■ 体調不良者の発生について

8月8日、5号機タービン建屋2階において、体調不良者が発生し、入退域管理棟救急医療室で医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前11時57分、救急車を要請し、救急車で双葉医療センターに到着しました。

状況は以下のとおりです。

- ・ 発生時刻 午前11時39分頃
- ・ 体調不良者の所属 協力企業作業員
  
- ・ 救急医療室退出時刻 午後0時27分
- ・ 救急車出発時刻 午後0時32分
- ・ 救急車到着時刻 午後0時50分

- ・ 身体汚染の有無                   なし
- ・ 発生状況                         5号機タービン建屋2階にて、資機材移動作業の監視中に倒れ、救急医療室にて診断を受けた。

その後、当該体調不良者は、双葉医療センターにて医師の診断を受け、治療後帰宅しました。

なお、個人の疾病であり、病名等は差し控えさせていただきます。  
詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) [\(3\)](#) ご覧ください。

#### ■ プロセス主建屋1階の水溜まりについて

8月9日午前7時43分頃、プロセス主建屋1階で水溜まりがあることを協力企業作業員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- ・ 発見時刻                             午前7時43分頃
- ・ 発生場所（設備名称）             プロセス主建屋
- ・ 漏えい箇所                         1階南側除染装置周り
- ・ 発見者                               協力企業作業員
- ・ 漏えい範囲                         約50m×15m 深さ不明
- ・ 漏えい継続の有無                 なし
- ・ 拡大防止処置                       確認中
- ・ 漏えい継続の有無                 確認中
- ・ 外部への影響                       確認中

なお、漏えいした水は建屋内に留まっており、外部への影響はありません。

漏えいした水は、除染装置タンクのフラッシングに使用した水であることを確認しました。

現場確認の結果、水溜まりの深さは、場所により1mm～30mm程度であることを確認しました。

また、漏えい前の除染装置のタンク水位より、最大で12m<sup>3</sup>程度の水が漏えいしたものと推定されます。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) [\(3\)](#) ご覧ください。

## \* 実施計画及び監視項目に関する解説

### ○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

### ○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

### ○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm<sup>3</sup>以下であることが定められています。

### ○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

### ○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）

## 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況

日付	公表内容
8月4日	<p>福島第一原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、6号機原子力建屋基礎マットにおいて、水平：18.5ガル、垂直：12.8ガルでした。</p> <p>現在のプラント状況は以下の通りです。(午前10時12分現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～6号機設備プラントパラメータ 異常なし</li> <li>・滞留水移送設備・水処理設備パラメータ 異常なし</li> <li>・原子炉注水設備(1～3号機) 運転継続</li> <li>・使用済燃料プール冷却設備(1、2、5、6号機、共用プール) 運転継続</li> </ul> <p>※3、4号機は地震発生前から停止中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸側遮水壁設備 運転継続</li> <li>・モニタリングポスト指示値 有意な変動なし</li> <li>・発電所敷地境界・構内ダストモニタ指示値 有意な変動なし</li> <li>・構内線量表示器指示値 有意な変動なし</li> <li>・海水放射線モニタ・構内排水路モニタ指示値 有意な変動なし</li> </ul> <p>・区分IIのパトロールが午後0時42分に完了し、設備に異常がないことを確認いたしました。</p> <p>・また、地震によるけが人の発生はありません。</p> <p>福島第二原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、1号機原子力建屋基礎マットにおいて、水平：18.5ガルでした。</p> <p>現在のプラント状況は以下の通りです。(午前10時11分現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運転状況(1～4号機) 全号機廃止措置中</li> <li>・使用済燃料プール冷却系の状況(1、2、4号機) 運転継続</li> <li style="padding-left: 100px;">(3号機) 温度上昇確認のため7月22日から停止中</li> <li>・使用済燃料プールの状況(2号機)(溢水・漏洩) 無し</li> <li style="padding-left: 100px;">(1、3、4号機) 確認中※</li> </ul> <p>※なお、監視カメラにて燃料プールからの溢水無し確認</p>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>• 放射線を監視している排気筒放射線モニタや発電所の敷地境界に設置しているモニタリングポストにおける指示値は通常の変動範囲であり、現時点において外部への放射能の影響は確認されていません。</li><li>• 各プラントの点検状況 継続中</li><li>• 午前9時50分 3号機使用済燃料プール水位高または低の警報発生、同時刻同警報消灯、現在警報発生原因確認中</li><li>• 地震後のパトロールの結果、午前10時56分に異常なしを確認しました。</li><li>• 午前9時50分に発生した「3号機使用済燃料プール水位高または低」警報の原因は、同プールにおいては、現在、冷却停止による温度上昇確認のため、同プール水を循環させるポンプを停止しており、プール水位はオーバーフロー水位付近で維持しているものの、通常よりも低い位置にあるため、地震の揺れに伴いプール水位が一時的に低下したことによるものであり、設備異常やプール水漏えいに伴うものではありません。</li><li>• 3号機使用済燃料プール冷却停止による温度上昇確認は、同プール水位やその他関連する設備に問題がないことから継続いたします。</li><li>• また、地震によるけが人の発生はありません。</li></ul> |
|--|